

【エクアドル内政・外交：2009年1月】

1. 概要

- 1月7日 コレア大統領、キューバ訪問
- 15日 コレア政権二周年式典
- 20日 先住民抗議活動
- 26日 市民参画・社会コントロール審議会の設置
ファルコニ外務大臣、ベルギー訪問
- 29日 『鉱山法』発効
コレア大統領、ブラジル訪問
サウジアラビアと外交樹立

2. 内政

(1) コレア政権二周年演説

15日、コレア政権二周年記念式典が実施され、コレア大統領は過去二年間の施政報告及び今後の政策方針発表を約3時間に亘り実施した。同式典には、閣僚、立法・査察委員会委員、政府関係者、外交団、メディア関係者等が出席した。

(2) 鉱山法の制定

12日、鉱山法(Ley de Minería)案が立法・査察委員会の賛成票50、反対票6、白紙票3、欠席5を以て可決された。同法案は再度コレア大統領に差し戻されたが、20日、コレア大統領は拒否権を発動し、同法案の修正審議をするよう立法・査察委員会に再度差し戻した。

26日、立法・査察委員会は同法案第12条及び24条の一部を修正し、賛成票50を以て同法案を可決した。

29日、同法案は官報第517号に掲載され発効した。同法案発効後6ヶ月以内に、部門省(ministerio Sectorial)、及び鉱山規則・コントロール庁(Agencia de Regulacion y Control Minero)が設置され、種々の鉱山法規則が制定される予定である。

(3) 先住民の抗議活動

20日、エクアドル先住民同盟(CONAIE)主導による鉱山法制定に反対する抗議行動が全国規模で展開された。コレア大統領が不法行為については厳しく対処する旨表明していたこともあり、特に目立った混乱等には発展せず、抗議行動は比較的平穏裡に行われた。同抗議行動による負傷者数(全国)は計9名(警察官6名、先住民3名)、逮捕者は12名であった。

(4) 市民参画・社会コントロール審議会の設置

26日、立法・査察委員会は、市民参画・社会コントロール審議会(CPCCS:Consejo de Participacion Ciudadana y Control Social)の暫定的な委員7名及び委員代理7名を任命した。【当館注：新憲法では、「選挙に関する機能」及び「透明性・社会コントロールに関する機能」を従来の立法権・行政権・司法権に並ぶ二権として加えており、市民参画・社会コントロール審議会は「透明性・社会コントロールに関する機能」を司る機関である。】

任命された委員7名の氏名、職業及び政治的立場は以下のとおり。

氏名	職業	政治的立場
(a)Julian Guaman Gualli	先住民運動組織	やや政権寄り
(b)Monica Eulalia Banegas Cedillo	社会運動組織	やや政権寄り
(c)Carlos Manuel Vera Quintana	エンジニア	やや反政権寄り

(d)Betsy Ana Salazar Gonzales	経済学者	政権寄り
(e)Pablo Ignacio Cornejo Zambrano	弁護士	政権寄り
(f)Emma Roxana Silva Chicaiza	弁護士	政権寄り
(g)Oswaldo Vinicio Ruiz Falconi	弁護士	やや政権寄り

(5) 総選挙での選出ポスト

27日、国家選挙審議会(CNE)は来る4月26日に実施される総選挙の選出ポストを公表した。大統領選挙決選投票が行われることになった場合には来る6月14日に実施される。

(a)大統領及び副大統領(presidente y vicepresidente)	:各1議席
(b)アンデス議会議員(parlamentarios andinos)	:5議席
【当館註:選挙日6月14日、選挙運動開始日5月23日～】	
(c)国会議員(asambleistas)	:124議席
【当館註:全国区15名、海外区6名、各県区103名】	
(d)県知事(prefectos)	:23議席
(e)副県知事(viceprefectos)	:23議席
(f)市長(alcaldes)	:221議席
(g)市議会議員(concejales)	:1,581議席
(h)町議会議員(vocales de las juntas parroquiales)	:3,985議席
総計	:5,964議席

(6) 人事

(a)文化大臣の交替

13日、モラ(Galo Mora)文化大臣がコレア大統領に辞表を提出した。

16日、ノリエガ(Ramiro Noriega)元文化副大臣が新文化大臣に就任した。

(b)大統領私設顧問の交替

17日、コレア大統領は、モラ前文化大臣を大統領私設顧問の後任に任命した。

(c)外務省筆頭次官の任命

21日、ファルコニ外務大臣は、ポソ(Lautaro Pozo)大統領府外交関係調整官を外務省筆頭次官(外務担当)に任命した。

(d)国内対外安全調整大臣の交替

27日、ラレア(Gustavo Larrea)国内対外安全調整大臣は、次期総選挙の国会議員選挙に全国区国会議員候補として出馬するため、コレア大統領に辞表を提出した。

28日、コレア大統領は同辞表を受領し後任として、カルバハル(Miguel Carvajal Aguirre)国防副大臣を任命した。

3. 外交

(1) 対キューバ関係

7日～10日、コレア大統領は、二国間の政治的関係強化及びエクアドルの地政的立場強化のため、キューバを公式訪問した。ファルコニ外務大臣、チャン厚生大臣、バジェホ教育大臣、モラ文化大臣、モスケラ電力・代替エネルギー大臣、ガリアルド労働雇用大臣及びベラスポーツ大臣が同行した。

8日、コレア大統領は、ラウル・カストロ・キューバ国家評議会議長とともに保健、教育、文化、

科学技術分野の両国間協力に関する9件の文書に署名した。

(2) 対ペルー関係

23日、コリア大統領は、当国を訪問したシモン・ペルー首相を筆頭とするペルー政府代表団と会談した。同会談には、ペルー側からフェレイロス通商副大臣及びロハス在エクアドル大使が同席し、エクアドル側からファルコニ外相、カベサ・デ・バカ生産調整大臣、ポソ外務省筆頭次官(外務担当)、エガス外務省筆頭次官(通商担当)等が同席した。

上記会合では、世界金融危機に両国が一致団結して対応するための二国間協力メカニズムを立ち上げることが決定されるとともに、それぞれの国の採用する経済政策が相手国に負の影響を与えないようにするための対応策についても計画することが決定された。

(3) 対ブラジル関係

29日、コリア大統領は、第9回世界社会フォーラムに出席するため、ブラジル・ベレンを訪問した。ラミレス(Rene Ramirez)大統領府計画開発担当大臣、ポソ(Lautaro Pozo)外務省筆頭次官(外務担当)、モラ(Galo Mora)大統領顧問等が同行した。

(4) 対イラン関係

12日、コリア大統領は、エクアドル訪問中のイラン代表団団長 Mohammad Abbasi イラン協力大臣(Ministro de Cooperativas)と会談した。

Abbasi 団長は、アフマディネジャード・イラン大統領の名の下に昨年12月に実施されたコリア大統領のイラン訪問に対する謝意を表明するとともに、国民の支持を得ているコリア大統領を賞賛した。

(5) 対サウジアラビア関係

29日、エクアドルは、国連代表部を通じて、サウジアラビアとの外交関係を樹立するための協定書及び共同声明に署名した。エクアドル側の代表署名者はエスピノサ(Maria Fernanda Espinosa)国連代表部大使であった。

上記外交関係樹立の目的は、政治、経済、貿易、技術、文化等の分野における両国間協力を強化するためである。今次外交関係樹立において、法的平等の尊重、独立、国家主権、国家領土の統合、内政不干渉、紛争の平和的解決、武力による領土獲得の不承認等が確認された。

(6) 対ベルギー関係

26日及び27日、ファルコニ外務大臣はベルギーを公式訪問した。

26日、ファルコニ大臣は Catharine Ashton 欧州委員会通商総局局長と会談した。

27日、ファルコニ大臣は、欧州10ヶ国に在任中のエクアドル大使10名及びモンタニョ(Cesar Montano)WTO代表部エクアドル大使と会合を行った。

※以上は、当地新聞情報をとりまとめたものです。

